

刊夕 日四十月八

常磐每日新聞

定価 一月五拾銭 郵税五厘
 廣告料 五號十二字 第一行五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社

有識者の反省

磐岳 迂人

(一)

考へることゝ行ふことゝは本質的に一致すべきものであると思ふが、それには勿論いろいろの制限をつけて、その意味を明かにする必要がある。我々の考へることは必ずしも行ひ得るだけ考へるのでなく、人間の行ひには關係のないことも考へるから、考へることゝ行ふことゝが常に一致すべきだとも云へないわけだが、しかし、問題を横に轉じて側面から考へると、考へることの筋合と行ふことの筋合とは性質的に一致しなればならない、とは云へやう。考へることの眞面目、正直な人は行ふこと、實行することの眞面目さ、正直さと一致し得るのである。いゝ加減な考へ方をす

ノット

満蒙に跋扈してゐる匪賊の匪は悪るものゝ意味で其地方の平和を紊すもの馬賊などもその一種だ

る人はいゝ加減な行をする人である。性格的には思想と行爲とは一致する筈と解し得る。これは原則的に考

へて云ひ得ることゝで、實際的にはいろいろの除外例があると思ふが、さういふ云ひ方が許せぬならば、一見した處では、なかゝ甘

いことを喋り、いろいろの理窟は云ふが、その性格は實際にさうでないと思ふこととがあると思ふ。然るに今日の世相を見ると、さういふ除外例といふか、一見上といふか、とに角思想

明日の献立

【朝】 味噌汁——若芽 小付 黒豆
 【晝】 煮付 ぜんまい
 【晩】 さしみ——鰹 茗荷 玉子とち

と實行上に縦の關係に於て横の關係に於て鮮やかに結合し平行してゐない事柄の多くあるのを見て、遺憾に堪へない。思想問題がたゞ、さうとしか、人心が緊張を失ふとか、非常時と云ふには云ふが、云ふだけで實際の感じもないといふ事柄は、この邊から起つてゐるのではないか。理窟や云ひ譯や何とか云ふ思想はこれ並べ立てられても、性格的に喰ひ入つてゐない。云はゞ借り物で、従つて眞のその人の思想ともならず、縁日の商品の如く、體

裁を造つてあちらにこちらにふり撒かれてゐるのではないかと思ふ。

同じ血の色

平南 風籬

病める子をみとりしつゝ、あかゝと光る灯のもと、慰めに ふと 電球の邊に右手をさゝぐ、あかく赤く見ゆる指間、幼児も小さき手をのべあかゝ あかゝ!

と、呼ぶ血のめぐり、指の細き血管の黒ずみも見ゆ

やめる兒としばし、その血をみいる 父と子、同じ脈うつ、同じ血のいろ、夜は更けぬ

初夏詩章

島田 石秋

青葉のなかをよぎる、華かなパラソルは、青葉を別けて泳ぐ錦魚だ、健康で、そして初夏だ、僕の心は大空に羽うつ白鳥だ、香高い季節の野菜にかざられた、朝の食膳から、麥稈帽子の白い花咲く街頭へ、口笛のリズムを踏んで、僕は朝々、勇ましい出發をする

是非!

御融通には御利用下さい、萬事便利な御相談に應じます

三井質店
 平四・電六〇六番

耳鼻咽喉科専門

平田町(電話六九二番)

病室完備、自炊便有、
 山内醫院
 醫學士 山内亨 吉

石炭

一俵十八錢ヨリ

エビスヤ燃料店

多少に拘らず御用命下さい、直ちに配達致します。
 平町十五丁目
 東洋火災保險株式會社平中央代理店
 電話 四六番

盛夏の宵

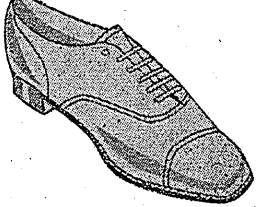
御散歩のお歸りには、愛飲家諸氏の爲に生れた、サケノイへ、酒の家、喜多八へ、是非一度お立ち寄り下さい、大衆的酒場、素人小料理、酒の家、喜多八、平町世界館前(丸新デパート)

佛壇 位牌 佛具 特賣

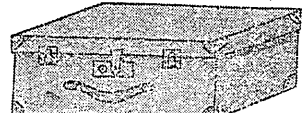
早い目が御得です、品種豊富、撰擇御自由、
 平町三丁目三六(北裏)
 漆器 佛具 卸商 共榮漆器店

氷は魚清!

氷の御用命は、電話四六七番へ、平町二丁目警察署通り、魚清氷卸部、支店 江名町築港内、電話 六九番



夏!!!
 道歩く紳士の足も! は白靴にかゝやく
 A 先づ何よりも白靴、足も軽けりや心も躍るよ、B 成程夢をなかつて黒靴で、ちよつと.....へんだね、断然安い菊地の白靴一九三四年型に、すると云つてやつたがね.....、四丁目驛通り、既製菊地靴カバン店、電話 六五九番



廻れ右した盛夏

炎熱地獄にあへく

衰勢挽回した海と農家

延長戦の灼熱の盛夏—本町通り大店の蔭は塵埃にまみれ乍ら焼け切つてゐる、ギラ／＼と眩むばかりの夏の陽の反射をうけて行人の面は玉なす汗の漣だ、遠慮なく照りつける

炎熱地獄に悩む苦悶の表情も傷々しい、何處を向いても暑い／＼と吐き出す悲鳴の連続である、平地方昨日の平均温度は三十六度五分—攝氏九十一度六分だ—けふ午前中は三十三度町内の一部は

華氏百度を越すといふ騒ぎ、正に殺人的暑熱である、だが……平町民の悲鳴を外に農家と各海岸では「お天道様々」と大喜びだ、雨に不作を傳へられた各種農作物は忽ち蘇生し、不順な天候に閉散を愁歎した各海水浴場は俄然頹勢挽回し押し寄せ、浴客の群衆を見て微笑む正に不振の海水浴関係者にとつてこの炎熱は起死回生の神でもあらう、—立秋既に過ぎて舊盆を一週間の後に控へて奇蹟的な「夏の奮起」であり崩れゆく夏の最後の猛威でもある

時節遅れ乍ら

貸間希望俄然激増

海岸賣店も擴張騒ぎ

「ハマ異變」の珍現象

數日來の炎熱に刺戟されて海へ海へと殺到する人の群七月下旬から八月初旬にかけての最盛夏の候に雨と寒冷に脾肉の歡を洩してゐた人々は昨今の暑熱に海へ濱へと狂氣の如き「逃避行」だお蔭で例年ならば終末に近い盆月に各海岸は大賑にひを呈してゐる、濕つた砂も焼けて人を誘ふ、

ある、だが……平町民の悲鳴を外に農家と各海岸では「お天道様々」と大喜びだ、雨に不作を傳へられた各種農作物は忽ち蘇生し、不順な天候に閉散を愁歎した各海水浴場は俄然頹勢挽回し押し寄せ、浴客の群衆を見て微笑む正に不振の海水浴関係者にとつてこの炎熱は起死回生の神でもあらう、—立秋既に過ぎて舊盆を一週間の後に控へて奇蹟的な「夏の奮起」であり崩れゆく夏の最後の猛威でもある

經濟更生

指定村指導

既報本郡の八、九兩年度に於ける指定經濟更生村である四倉、渡邊、飯野、神谷各町村に就いて縣では左記科目の指導を行ふと

(廿一日)四倉産業組合法
水田二毛作(廿二日)飯野産業組合法 綠肥(廿三日)渡邊 産業組合法
麥作(廿四日)神谷産業組合法 水田二毛作

石城販利組合

總代人選舉迫る

比較的平穩裡に終了か

石城販賣利用組合では来る廿日午前九時より石城及び双葉郡の一部各町村役場に於て組合總代選舉を行ふが定員は二十一名、平町は定員二名に對し有権者八十九名で大体に於て各町村共激烈な競争はないものと見られて居る各町村定員左の如くである

平二 江名一 草野二
大浦三 大野一 四倉二
赤井一 高久一 磐崎一
好間一 小川三 双葉郡 大久二

平町が隨一の成績

海軍事務檢閲に就き

横須賀鎮守府から激賞

過般平署會議室で行はれた本縣下の海軍事務檢閲成績に就いて本日横須賀鎮守府よりの報告によると署關係では平、若松兩署管内、町村關係では平、二本松等が最も良く特賞に價するとの激賞を受けた

第一臨海 過般一週
決算報告 間に亘り
新舞子に日歸へり臨海學校

出上つた四、三丁目のメーブルメント—斷然近代的形式美を盛り上げて「モダン平の新道路」と誇つてはゐるが一部ではこの暑さに餘り感心したものでないと言はれてゐる、小林平土水監督所長一代の事業である舗装工事の句を云ふとは?……と調べて見ると他愛ない「舗装は暑くて敵ワヘン」といふのだ、成程四丁目から三丁目までの舗道を歩めば暑熱に焼けたアスファルトの、イヤ暑いこと／＼、全くこれには「敵ワヘン」である自動車が通行する様になれば塵埃は遠慮なしに吹き飛ぶ、平町民の夏時の悩みがまた一つ殖えた、昨今再來した殺人的炎熱にこの悩みは増してゆくばかり……

潜水器で

アハビ採取

豊間漁業組合の鮑取りはモグリ専門であつたが淺海に於ける鮑の缺乏による收穫の激減の對策として潜水器を使用卅尺以上の深處をも採取することになり豫てよりに縣に申請中であつたが此の程許可になつた

外科全般

(特ニ内臓外科、泌尿、性病秋)
醫學博士 渡部 義夫
小兒科、内科 女醫 渡部 きい子
平町役場前 [電話二七七番]

渡部外科

入院應需 診療午前八時ヨリ午後九時マデ



阿部石炭商店
電話三七番

石炭
コークス
炭
平 驛 前

美味!
芳醇!
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

一九、六〇 牛乳代 九
一、八〇 中食代 一四
六一 副食物代 七、〇
〇 看護婦手當 一、一
〇 海人草代 二、〇〇
〇 欠席者への返金 三、〇
〇 藥代

家庭貧困の児童ほど

職業に永續性がな

平第一校で調査の結果判明

求人側が採用を断る

救ひ難い子等

平第一小學校では今來同校を巣立つた児童の就職後の状況を知らべく此の程町内の各銀行、會社、官衛、商店等に照會調査を求めたところ去る三月末の就職から現在迄僅か四ヶ月の間に早くも

退職してしまつた児童が非常に多数を占めてゐるのに驚きその原因を探究した結果之れ等児童の殆んど大多数が「何れも片親だけで家庭にゴタ／＼が絶え

ない上に生活が頗る窮迫してゐる」ことが児童の職業に對する永續性の乏しい原因であることが判明した。據主側では「今後は両親の揃つた家庭の子供でない」と言つてをそので當局も就職に最も迫られた同情すべき境遇にある児童達が却つて

家庭の事情の爲めに折角開拓された就職の門戸を永久に閉鎖されるが如きは誠に遺憾な現象であるとして善後策に腐心してゐる

平町四軒町の井上榮市君は昭和六年から九年中に仙臺野砲第二聯隊上等兵として滿州事變に参加し目下除隊歸郷中であるが今回在營中の戦功により勳八等白色桐葉章並に一時金二百四十五圓を賞勳局より下賜される事に決定、本日賞勳局下條康鹿總裁より榮譽の勳記が町役場に届けられたので近く青沼町長より傳達される

井上榮市君

戦功赫赫!

榮譽の勳記傳達

空飛ぶ勇姿を夢みつゝ學ぶ

磐中五年生志望調査

磐城中學校では去る一學期末來春三月學窓を巣立つ五年生百八十八名に就いて卒業後の志望を調査したところ高等學校進學志望が例年の如く最高を占めてゐるが中には雄々しくも海外飛躍を志す者或は飛行家等もあつて軍國時代下の若人の意氣を見せてゐる、各志望別は左の如くである

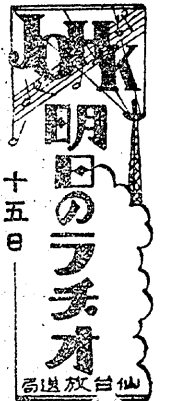
- 學校一八 師範 一部一六
- 農一五 工一四 大學豫科一三 商業及び商業専門學校九 高師八 海兵七 陸士 藥專 醫專各四 大學専門部 鐵道員各三 商船學校 体操學校 通信官吏各二 軍人水産學校 外語學校 青山學院 教員 鐵道教習 所 會社員 僧侶 飛行家 南米移住各一 未定

虛弱兒保養

收容者選衡

本郡の定員廿名

本縣では昨年縣下各小學校に於ける虛弱兒童の養護施設として新舞子に於て催した臨海學校が頗る好成績を挙げたのに鑑み今年も来る二十日頃より一週間双葉郡廣野村折木礦泉浴場に於て催す事になり目下各小學校ではそれ／＼家庭と連絡をとり調査中であるが本郡下に於ける定員は二十名で資格は貧困なる家庭の虛弱兒



明日のラジオ

今晩の部
後六、〇〇 (子供の時間) 名作物語「アラデイン」の不思議なプラン(三) 東京放送童話研究会
後六、二五 趣味講座「奥の細道を辿る」石田元季 談十二選(四) 寶生新

前六三〇 夏期英語講座 (二) 高垣松雄
前七、二〇 聖典講義(三) 高島米峰
前七、四〇 六年生のおさらの時間「地理」(第一日) 伊藤徳郎
前八、〇〇 孟蘭盆會法要 大阪天王寺より中繼
前八、五〇 野球試合實況 第二十回全國中等學校優勝野球大會(甲子園より中繼)
前九、〇〇 料理献立 竹屋定吉
前一〇、三五 家庭講座

「両親の感化に就て」高野みちる
後六、〇〇 (子供の時間) 名作物語「アラデイン」の不思議なプラン(四) 東京放送童話研究会
後七、二〇 趣味の話「藝談十二選」(五) 稀音家 六四郎
後八、〇〇 浪花節「安兵衛婿入り」春日井梅鶯
後八、四〇 歌謡曲 小梅コロンビア合唱團
後九、〇〇 各地盆踊り (仙臺市西公園より中繼)
後九、一五 盆踊實況

平署運轉手のお手柄

大金を窃取主家を飛出た 手長小僧を捕ふ

平署の給仕兼自動車運轉手佐々木徳吉(三)君は今晩午前一時頃公用で自動車運轉しての歸途田町通を進行中暴動不審の少年を發見したので事情を聞かうと車をストップした處少年は突然逃走を企てたので追跡取押へて署員に引渡した、係官が取調べると同人は箕輪村大字神小屋五二生れ當時千葉縣豊川村字眞龜機業家小倉一作方雇人綱山武(六)假名で昨年五月前借二百圓の年奉公として右小倉方に雇はれたが數回に亘つて賣上金廿圓餘を窃取した外本月五日賣溜金廿圓を窃取して逃走郷里に歸るべく平町を徘徊して居た不敵な少年であること判明した

友人の時計を盗んで遊ぶ

悪坑夫檢舉

錦村字中田生れ勿來町大日本炭礦坑夫上坂林平(三)は去る十日同僚の神原玉市所有金銀時計時價百廿圓を窃取入質して勿來町で遊興中を植田署に檢舉された

裁判所たより

△好間村大字上好間字忽滑一八古物商推名明(三)は去る六月中同村飛田某外一名より中古自轉車を各買受け乍ら所定の帳簿に記載せず古物商取締法違反として罰金五圓
△四倉町字仲町二三駄菓子商高木キヨ(三)は去る四月十日居宅前道路に遺失してあつた櫛一枚を拾得これを同町某に買却横領した事發覺遺失物横領罪として科料十圓に本日各半區裁判所に於て略式命令を以て處分された

△配達夫 卅五迄 尋卒
△配達夫 卅五迄 尋卒
△配達夫 卅五迄 尋卒
△配達夫 卅五迄 尋卒
△配達夫 卅五迄 尋卒
△配達夫 卅五迄 尋卒
△配達夫 卅五迄 尋卒
△配達夫 卅五迄 尋卒
△配達夫 卅五迄 尋卒
△配達夫 卅五迄 尋卒

坑夫落盤壓死

川部村字北造居住山崎炭礦

宿料踏倒し

自稱日清生命保險會社外交員信夫郡瀬上町字荒町生れ佐藤與五郎(三)は平町田町會津屋旅館こと金澤清方に去る五月廿四日より二日、更に七月一日より四日間合計六日間の宿料、電燈料十

平職界紹介所報告

△人を求める方
△女中 廿才 高卒 月十圓位
△鍛冶工 四十以下 尋卒 給料面談
△農夫 委細面談

季節鳥料理

やな川

魚菜

平田町 配達迅速 電話二四

新立頭

田邊南龍(作)
山本英春(畫)

一〇九

長兵衛にケチを
「エ、御目出度う存じます
今晩は御目出度う存じます
……」
家の者は喧嘩でも仕掛け
られた日にやア大變だから
皆な奥へ逃げちまつた
「俺等は大阪三郷の若いも
ので、御目出度う存じます
した、御目出度う存じます
でございませう、御目出度
う存じます、御目出度う存
じます、御目出度う存じます
長兵衛を正して
「これは皆さんよく入らつ
しやいました」
「貴方が御目出度うござい
ませうか」
「私は半兵衛と申しまして
江戸表の者でございませう、
今晩御目出度う存じます、
でございませう、少々風邪
で臥せつて居りますから、
全體帆柱伊之助が御挨拶を
申上ぐべきところ、伊之助
の名代に私が皆さんに御挨拶
を申し上げませう、幾久し
うお見知り置かれますやう
……」

「ハアさうでございませうか
シテ貴方は何の半兵衛さん
と仰しやいます」
「エ、しやうき半兵衛と申
します」
「ウム……この大阪やア
藤兵衛、伊之助といふ、大

した顔だその親分を伊之助
と呼び捨てにするのは
何ういふ譯、江戸では唐犬
權兵衛とか夢の市郎兵衛と
かいふ人なら兎に角しやう
き半兵衛なんて名も知らね
え者に大阪の顔の賣れた親



分が呼び捨てにされる譯が
ねえ今一遍いつて見ろ」
「馳走して遣れ」
「半兵衛に馳走して遣れ」
「海山越えて来たのだから
馳走して遣れ、名前も知れ
ねえ鐘馗半兵衛が、伊之助
と云ひながら、この狗の

ねえ奴だ」
と云ひながら、狗の打殺
したのを突然長兵衛の顔を
目掛けて放つたから、長兵
衛體をかはず途端に金屏風
へ當つて血がベツタリ付き
ました。
「これは何だ」
「腹が減つて居るだらうと思
ふから、御馳走して遣つた
んだ」
「黙れ、下から出りやア尾
上りやアがつて狗の死んだ
のを食へとは何んだ、何ん
の某と名前を名乗つて來り

死んだのを大勢の中へ叩き
付ける
「や、こりやあゝらぬ奴だ
本名名乗りやあ出迎ひをし
なきあならねえとは變な事
を云ふ、本名を聞かして呉
れ、何といふ名前だ」
「黙れ、強つて聞きてえと
いやあ聞かして遣る、日本
六十餘州の御代名へ入られ
をして居る元締幡隨院長兵
衛とは俺が事だ、貴様達片
ツ端から殺してしまふによ
つて覺悟をしろ」
と脇差の柄へ手を掛て立
上る
「ソレ長兵衛さんだ、江
戸の幡隨院長兵衛さんだ」
といふと、ドカ／＼と
逃げて行く、固より長兵衛
斬る氣はないのだから、立
上つた儘見送つて居ると、
大阪は道幅の狭いところだ
によつて、一人が轉ぶとそ
の上を踏付けて行く者があ
る、煙草入を落して行く奴
がある、向ふ腰を摺り割い
て逃げる者もある。

蓄音器のレコード交換所!!!
並に新古レコード販賣所開設!!!
皆さん今迄御持ちの聞きあきたレコードを取
り換へてあげませう
高價な壹枚のレコードの價で幾枚も御樂しみ
が出来ませう
交換料は別に定めませんが壹枚最高五十錢最
低十錢位です
レコード用針は特に大勉強致します
平野前貨物ホーム入口

電球と正金商會出張所
器具
出張 電話(呼出)三〇三番
本店 七丁目電話三〇〇番

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

かつを
塩から

魚問屋
最優最 日本生 命平代 代理店
志賀 盛榮
(三一二電)目丁四平

難波
内科一般
醫學博士 難波 睦
平町大町新川端
電五〇二
院

米國製劑皮膚病良藥
レメドール
子宮あたゝめぐすり
宮 温 湯
丹波博士創製セキドメ
たんばあめ
うまくてセキカヨクトマ

靈藥ムテキ
平町古鍛冶町一〇

阿康藥舖
縣社ノ下 電話四四番